

**栽培ポイント**

- ① 極端な早まきは避ける  
初夏どり作型の場合、早まきすると晩抽性品種でも抽苔してしまう恐れがあります。トンネル栽培では10月上旬以降、無被覆栽培では11月中旬以降が播種適期です。

④ 重量がのる  
春～初夏にかけては、近年高温・干ばつ傾向であり、特に7月収穫の作型では、1本あたりの重量が出にくく軽いネギになりやすいですが、「白翠」は葉肉が厚く水分量も多いため、1本重が重く歩留まりが良い品種です。



はじめに  
ネギは全国で栽培されている作物であり、年間を通して青果物から業務用・加工用まで幅広い用途で高い需要があります。国内では産地リレー



## 新品種のご紹介

② 肥料は控えめに  
「白翠」は草勢が強く、肥料に敏感な品種なので、多肥栽培よりも減肥栽培に向きます。また、襟しまりの強い品種ではありますが、極端な多肥条件では襟割れの増加や在圃性の低下を招きやすいので、適期収穫を心がけましょう。

③ 病害虫防除は予防を中心  
ネギは栽培期間が長いため、病害虫の被害を軽減するためにも予防防



		●:播種	×:定植	■:収穫	□:トンネル被覆							
中間地・暖地	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	初夏どり	●	●		×	×						
春どり				■	■	■	●	●	×	×		

春どり作型の場合、肥大性の優れる「白翠」は、定植後から生育を進めすぎると台風等の被害を受けやすくなっています。そのため、6月上旬以降の播種では、前半の生育を抑え、秋以降の追肥で生育を促す管理が適します。

② 肥料は控えめに  
「白翠」は草勢が強く、肥料に敏感な品種なので、多肥栽培よりも減肥栽培に向きます。また、襟しまりの強い品種ではありますが、極端な多肥条件では襟割れの増加や在圃性の低下を招きやすいので、適期収穫を心がけましょう。

初夏どり作型の場合、高温期収穫で軟腐病や襟割れの被害が出やすくなります。特に7月どりでは、止め土前の追肥量を減らすなど、多肥にならないよう注意しましょう。

春どり作型の場合、草勢の強い「白翠」は前述の通り、元肥はN成分で全量の半分以下として、定植後の生育は抑えて、気温が下がり始める時期（夜に虫の鳴き声が聞こえ始める時期）からの追肥・土寄せで仕上げる栽培管理が適します。

### おすすめ作型

「白翠」のおすすめ作型は、10月播種の5～6月収穫、11月播種の7月収穫です。

初夏どり作型では、トンネル栽培で肥大性を生かした5月どり、無被覆栽培で在圃性や収量性を生かした7月どりが特におすすめです。

春どり作型では、肥大性を生かした3月どり、襟しまりの強さと晩抽性を生かした4月どりが適します。

「白翠」は早生品種の中でも襟しまりに優れる品種です。初夏どりの作型では襟割れによる在圃性の低下が問題となっていますが、高温期の収穫においても襟が割れにくく、収量性や秀品率が優れます。

### ③ 在圃性に優れる

「白翠」は早生品種の中でも襟しまりに優れる品種です。初夏どりの作型では襟割れによる在圃性の低下が問題となっていますが、高温期の収穫においても襟が割れにくく、収量性や秀品率が優れます。

### ② 葉色が濃く葉先枯れが少ない

「白翠」は、晩抽性品種の中でも肥大性に優れる早生タイプです。初夏どりを目指した秋まきのトンネル栽培では、早生性を生かして5月からの収穫が可能です。収穫物は2Lサイズを中心としたものがよく、伸長性にも優れるため、土寄せの期間が短い秋まき作型においても軟白部の確保が容易です。

### 品種特性

① 肥大性・伸長性に優れる  
「白翠」は、晩抽性品種の中でも肥大性に優れる早生タイプです。初夏どりを目指した秋まきのトンネル栽培では、早生性を生かして5月からの収穫が可能です。収穫物は2Lサイズを中心としたものがよく、伸長性にも優れるため、土寄せの期間が短い秋まき作型においても軟白部の確保が容易です。

性に優れた品種を目指として開発を進め、このたび新品種として「白翠」を発表しました。

カネコ種苗(株)  
ぐにさだ育種農場  
牧村徹也